

久野遺跡巡りコース

古代への小旅行! 緑豊かな丘陵地を歩いて古墳探訪を楽しもう



歩いて、未病を改善!
神奈川県・県西地域ウォーキング 小田原市 No.06

「#県西ウォーキング」でSNSに
写真や感想をアップしよう♪



アクセス

S スタート 小田急小田原線「足柄駅」

G ゴール 小田急小田原線「足柄駅」

※コース詳細は小田原市ホームページをご参照ください。



歩行距離

9.9km

歩行時間

3時間08分

消費カロリー

573kcal

高低差

138.0m

歩数

12,941歩

歴史好きに
おすすめの
コースだよ!



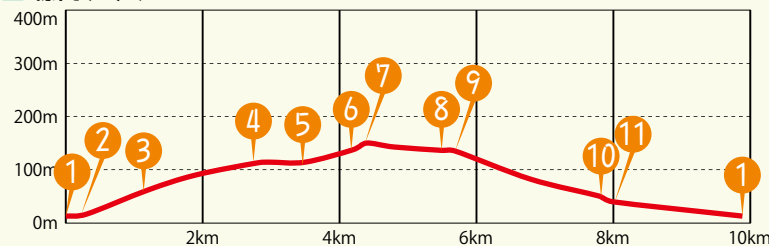
コースの魅力

【花木】小田原フラワーガーデン (梅: 1月下旬～3月上旬、桜: 2月中旬～4月下旬、あじさい: 6月中旬、花菖蒲: 6月下旬～7月中旬、
バラ: 春5月中旬～6月上旬、秋10月中旬～11月中旬)

【景観】久野2号古墳付近から見渡す足柄平野 【歴史】玉宝寺(五百羅漢)、総世寺、北条幻庵屋敷跡、久野古墳群、総世寺裏古墳、中世集石墓

1 足柄駅(小田急線)	5分	2 玉宝寺(五百羅漢)	18分	3 久野1号古墳	32分	4 久野4号古墳	15分	5 小田原フラワーガーデン	20分	6 総世寺	5分	7 バス停 ざる菊園前	25分	8 中世集石墓	5分	9 バス停 南船原	30分	10 東京院	3分	11 北条幻庵屋敷跡	30分	1 足柄駅(小田急線)
----------------	----	----------------	-----	-------------	-----	-------------	-----	------------------	-----	----------	----	----------------	-----	------------	----	--------------	-----	-----------	----	---------------	-----	----------------

標高グラフ



コースの概要

久野地区に点在する遺跡を中心にめぐるコースです。箱根外輪山の「明神ヶ岳」や「明星ヶ岳」のすそ野になだらかに広がる丘陵地帯には古墳・集石墓や寺社仏閣が多く、太古の昔から人々の生活の場であったことがうかがい知れます。前半は丘を登る坂道が続きますが、途中から足柄平野と丹沢山地を見渡すことができ、爽快な気分にあふれることができます。

県内でも珍しい古墳群



久野古墳群

古墳時代後期に属する県下有数の高塚式円墳の古墳群。「久野百塚」あるいは「久野九十九塚」と呼ばれます。特に足柄駅から一番近い「久野1号古墳」は、その大きさから「王塚」「百塚の王」の名も。

家族揃って楽しめる花の楽園



小田原フラワーガーデン

梅、バラ、花菖蒲をはじめ四季折々の花を楽しみに散策に訪れる人も多く、特に夏季限定の「踊る噴水」は子どもたちに大人気です。大温室「トロピカルドーム」(有料)は、一年中珍しい熱帯の花々でいっぱい。

【住】小田原市久野3798-5 【営】9:00～17:00(トロピカルドーム温室入園は16:30まで) 【電】0465-34-2814 【入】無料(トロピカルドーム温室は大人200円、小・中学生100円) 【休】月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日(振休含)と直後の平日・年末年始





ウォーキングMAP



8 中世集石墓

集石墓とは、13世紀前～中期にかけて多く築かれたもので、内部に河原石を敷き詰めて蔵骨器を埋納しています。この遺跡も、大型の常滑産の甕の墓であると考えられています。市指定史跡。



玉宝寺(五百羅漢)

天桂山「玉宝寺」は、北条氏の家臣が母のために開いたと伝えられ、五百羅漢を安置する寺として知られます。「多古の五百羅漢」と呼ばれ、木造でこれだけ立派に揃ったものは全国的に見ても珍しいものです。市指定有形民俗文化財。

ルールとアドバイス

- 1 ゴミは必ず持ち帰りましょう
- 2 植物・鳥・動物・虫などの採取・捕獲は絶対にやめましょう
- 3 自分に合った歩きやすい靴をきましょう
- 4 水分の補給をこまめにしましょう

総世寺って、どんなお寺？

総世寺

総世寺は、大森信濃守頼明の子である安叟宗楞禅師により創設されました。天正18年(1590年)、時の関白・豊臣秀吉が全国の大名を動員し、小田原北条氏の征伐に乗り出した「小田原攻め」。その際、秀吉の甥である羽柴中納言秀次が総世寺に陣を張りました。秀次は総世寺に、撞鐘を寄贈しており、その撞鐘は、現在も本堂内に置かれています。

こんなに歴史ある総世寺は、住職の人柄と総代の手によって、庭のぎざぎざ、手入れされた林など、訪れる人誰もが心安らぐ設けがされています。訪れる度に楽しみが増える、心なごむスポットとなっています。

